

## 勿凝学問 272

政策の制約条件としての財源

制約条件と接点さえ持たない政策が羅列された冊子はマニフェストとは言わないんだよ

2009年12月18日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

一昨日、歯がもげた。だから、歯医者さんに出かけた。通っている歯医者さんは、次のような連絡をしてくる人だから、治療してもらいながら、政治の話になったりする。

いつも先生のサイトで勉強させて頂いておりますが、  
今回特に「勿凝学問 255」に感銘を受けまして、  
<http://news.fbc.keio.ac.jp/~kenjoh/work/korunakare255.pdf>  
これを歯科関係の医療者にもぜひ読んでもらいたいと思い、  
リンクだけでも当会サイトから貼らせて頂けないと  
思っメールさせて頂きました。  
ご検討のほどよろしくお願い致します。

キーーーーーンッと歯を削る音(T\_T)の中、歯医者さんは語る——「医療関係者の民主党への期待は、一気に冷え込んでしまいました。あのマニフェストは、いったいなんだったんでしょうねえ」。

僕「選挙の前は、みんな、マニフェストを比較して、最後に、「ただし民主党には財源の不安がある云々」と言っていたんですけど、僕は…モゴモゴモゴモゴ」。

歯の治療をしてもらっているんだから、まともに話せるわけがない。まあ、言いたかったことは、マニフェストで財源のところをみて、そこにウソが書いてあったら、後は相手にしてあげる必要はないんですよ。そこで、各党のマニフェストを比較して、最後に「ただし民主党には財源の不安がある」という議論をすると、マニフェストに、できもしない八方美人的なことを並べ立てた政党の思うつぼなんですよ。

(敢えて言うが、マニフェストの財源の箇所にウソを書く政党があるという)「この深刻な問題」に関して、たとえば、僕のホームページの8月11日に、次の文章がある。

- 日本医療政策機構「国民医療政策フォーラム」というところに、僕の名前があるようなんですけど、すっ、すみません、僕はまったく関わっておりません。連絡がきても一度も返事を

出さなければパスできるだろうと思っていたら、いつの間にか[こうなりました](#)。

3月19日に日本医療政策機構主催の朝食勉強会で話したので、知らない人たちじゃないからまあいいかとスルーしていたのですが、m3.comで「医療政策国民フォーラムによる、自民党、民主党、公明党のマニフェスト検討会」などが紹介されていて、へえ、そんなのがあったのとおと読んでみて、こりゃあ、僕はぜんぜん関わっていないことを言っておいたほうが良いだろうと思ひまして、メールの返事を一度も出したことのない怠慢を告白することにいたしました、はい、ごめんなさい。。。って、誰に謝ってるのやら(・\_・)

- 昨日8月10日の朝刊では一斉に一面で、「新しい日本を作る国民会議」(21世紀臨調)主催の公約検証大会のことを取り扱っていたけど、あれ、経済同友会と連合など異質な複数の団体の点数を足したり平均値を出したりすることになんの意味があるんだ？少なくとも分かったことは、8月9日日曜日に、あの記事を翌朝の一面にせざるを得なかったほど、よほどなにも起こらなかったんだろうということかな。。。
- なんだか最近、面白すぎる企画が多すぎる。

このホームページをみた、日本医療政策機構「国民医療政策フォーラム」の方から、次のメールがくる。

いつも大変お世話になっております。

医療政策国民フォーラム事務局でございます。

権丈様のホームページを拝見させて頂き、ご連絡をさせて頂いております。

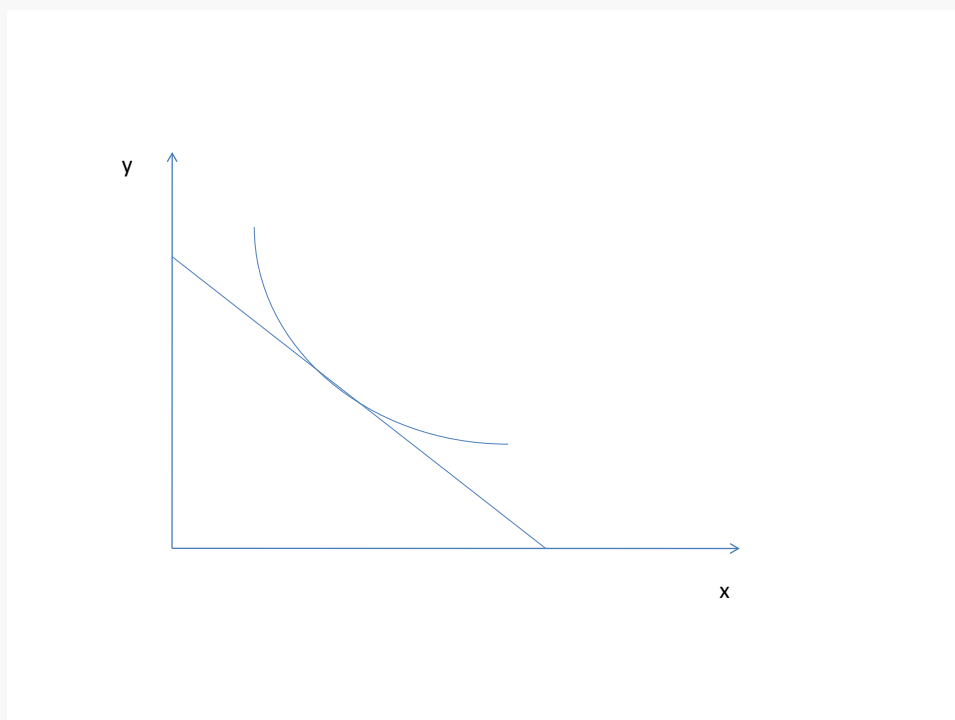
ご参画について口頭でご了承頂いたと理解しておりましたが、今後ご迷惑をおかけすることがないよう、当フォーラムのウェブサイト等からお名前やお写真を削除させて頂きます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

僕にとっては、選挙前のあの頃、みんな、マニフェスト比較をやったりしていることが、不思議で仕方がなかった。だから、あの頃は、そうした企画のインタビュー、論文など、すべて断っていた。マニフェストというのは、財源にウソが書いてあったら、後の話はまったく意味がないんだよね。なのに、みんな揃いも揃って、マニフェストの支出側面を比較して各党の優劣を論じ、そして最後に、ただし書きとして、財源の話に触れるというプロトコルを踏襲していた。

先日、勿凝学問 270 [バランス感覚の妙を教える経済学](#)を書いたけど、経済学の考え方の一丁目一番地は「制約条件下の極大化行動」という考え方で、そのことは、経済学の最大の長所なんだよな。

消費者理論、生産者理論、社会選択論の共通点には、まず、制約条件下の極大化行動という考え方がある。要するに、次の図。



制約条件は、消費者理論では予算制約線、生産者理論では等費用曲線、社会選択論では効用可能性曲線と呼ばれ、消費者理論の効用関数は、生産者理論では生産関数、社会選択論では社会的厚生関数と呼ばれている。

そして、政策を考える際も、政策の制約条件として真っ先に財源を考えるからこそ、cool head が鍛えられるわけで、この制約条件と接点さえ持たない政策を、warm heart であれ cool heart であれ、評価してあげることが、10円の役にも立たないわけ。ところが世の中には、cool head ならぬ、財源のことを先送りした warm head の議論、10円の役にも立たない論評、シンポジウム、企画、その他諸々が氾濫していた。いや、10円の役にも立たないどころか、詐欺話をマニフェストに書いている政党をアシストするという、社会にとって大きな損失さえもたらしていたんだよなあ——などというようなことを、歯の治療をしてもらいながら言いたかったわけ。でも、歯医者さんの患者として、口を大きく開けたままの僕は、言いたいことをまったく話すことができなかったから、今日は、こうした文章にしてみたわけです、ハイ。

国民負担率を社会保障政策の制約条件とみなした、「社会保障政策に関する国民負担率決定論」なる論を、参考資料としてリストアップしておきますので、お手すきの時にでもご

笑覧下さいませ。ではでは。

参考資料

- ✓ 勿凝学問 262 [社会保障政策に関する国民負担率決定論の検証過程——「真っ逆さま一にいー堕ちてデザイナー♪」という将来予測は、いかなる根拠に基づくのか？](#)
- ✓ 勿凝学問 255 [2つの国民——日本人の少数派と多数派](#)
- ✓ 勿凝学問 253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)
- ✓ 勿凝学問 218 [足りないのはアイデアではなく財源である——財源の裏付けなき社会保障の会議など、ガス抜きの意味しかなし](#)
- ✓ 勿凝学問 186 [この国の今の状況で、負担増のビジョンを示さない政党には拒否権を発動するべし](#)